

第131回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

本日、第130回火山噴火予知連絡会（平成26年10月23日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

全国の主な火山活動

今期間（平成26年10月23日～平成27年2月24日）、桜島、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕については別に「御嶽山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。2015年1月の火山灰噴出量は60万トン、二酸化硫黄の放出量は1日あたりの2,300～5,000トンでした。噴煙の高さの最高は火口縁上4,000m、大きな噴石は最大3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで達しました。

桜島島内の傾斜計、伸縮計及びGNSSでは、2015年1月以降、山体が隆起・膨張する変化が観測されています。今後さらに多量の火山灰が噴出する可能性があります。また、始良カルデラ深部では長期的に膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕2013年11月20日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。2015年2月23日時点で、新たな陸地の面積は約2.5km²になっています。

西之島では噴火活動が継続しており、島の中心から概ね4 km以内では噴火に警戒してください。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年11月25日からマグマ噴火が始まり、11月26日以降は連続的に噴火が発生しています。GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。二酸化硫黄の放出量は、10月下旬以降、1日あたり1,700～3,100トンと多い状態で経過しています。

以上のように中岳第一火口では活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕GNSS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12

月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕えびの高原（硫黄山）周辺では、引き続き火山性地震が時々発生しています。2015年2月2日には、硫黄山付近を震源とするマグニチュード1.2（暫定値）の地震が発生し、2月3日頃から、韓国岳北東観測点の傾斜計で、北西方向が隆起すると考えられる変動が観測されました。GNSSによる地殻変動観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の伸びの傾向が続いています。

えびの高原（硫黄山）周辺では、表面現象には異常は見つかっていませんが、地震活動が継続していますので、今後の推移に注意する必要があります。また、噴気や火山ガスなどが突然噴出し、今後状況によっては噴火が発生する可能性があります。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。また、北側噴気地帯のガス成分や湯釜湖水の成分にも活動活発化を示す変化がみられます。

草津白根山では火山活動が活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年10月以降、地震活動が全体的に活発な状況で経過し、2015年1月には、日回数、月回数ともに、1998年以降最多となりました。2014年12月12日には継続時間の長い火山性微動が発生し、傾斜計でそれに伴う急な西側上がり（火口側上がり）の変化がみられました。GNSS観測では、2014年9月頃から一切経山南山腹観測点（大穴火口の北約500m）が関係する基線で、一切経山付近の膨張を示すと考えられる変化がみられます。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1）〕火口近傍の観測点で、山体浅部の膨張によるとみられる地殻変動の変化率が2014年7月頃から大きくなり、膨張がより浅い領域にまで及んでいる可能性があります。また、浅部の熱水活動の活発化を示すと考えられる常時微動の振幅レベルが、2014年11月頃から増大しました。以上のことから、熱活動が活発化する可能性、場合によってはごく小規模な水蒸気噴火が発生する可能性が高まったと考えられましたが、これらの活動は次第に低下しました。

ここ数年、大正火口の噴煙量及び地震回数の増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

注）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁 地震火山部 火山課 （電話：03-3284-1749）

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

アトサヌプリ [噴火予報(平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- 全磁力連続観測によると、96-1火口南側地下の温度が上がった状態が継続している可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

大雪山 [噴火予報(平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十勝岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)] 平成26年12月16日に噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引上げ、平成27年2月24日に噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(平常)に引下げ。

- 火口近傍の観測点で、山体浅部の膨張によるとみられる地殻変動の変化率が2014年7月頃からさらに大きくなり、膨張がより浅い領域にまで及んでいる可能性があります。また、浅部の熱水活動の活発化を示すと考えられる常時微動の振幅レベルが、2014年11月頃から増大しました。
- これらのことから、熱活動が活発化する可能性、場合によってはごく小規模な水蒸気噴火が発生する可能性が高まったと考えられましたが、その後、これらの活動は次第に低下しました。
- ここ数年、大正火口の噴煙量及び地震回数の増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

樽前山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- 山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

倶多楽 [噴火予報(平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

有珠山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

北海道駒ヶ岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

恵山 [噴火予報(平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

岩木山 [噴火予報(平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

八甲田山 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動も観測されませんでした。
- ・ 大岳山頂直下付近の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

秋田焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

岩手山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山性地震は、一時的に多くなることもありますが、期間をとおしては概ね少ない状態で経過しています。
- ・ その他の火山活動は低調に経過しており、噴火の兆候は認められません。

秋田駒ヶ岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ めだけ女岳では、2009年から拡大している地熱域が引き続きみられますが、今期間は大きな変化は認められませんでした。
- ・ 地震活動は低調で、地殻変動にも大きな変化はみられませんが、地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

鳥海山 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

栗駒山 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

蔵王山 [噴火予報 (平常)]

- ・ 2014年8月以降、火山性微動が断続的に発生しています。今期間、振幅の大きなものもみられました。
- ・ 火山性微動発生時には、傾斜変動がみられることがありますが、GNSSによる地殻変動観測と噴気活動に特段の変化はみられません。
- ・ 2014年10月には御釜内の一部白濁が一時的に確認されました。
- ・ 2013年1月以降、地震活動の高まりがみられます。過去の活動期には突発的な噴気孔の生成や、火山ガスや泥の噴出等の現象もありましたので、観光や登山で近づく際には十分に注意してください。

吾妻山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)] 平成26年12月12日に噴火警戒レベルを1 (平常) から2 (火口周辺規制) に引上げ。

- ・ 2014年10月以降、地震活動は全体的に活発な状況で経過し、2015年1月14日には地震の日回数が194回、1月の月回数は744回と、いずれも1998年11月以降で最多となりました。
- ・ 2014年12月12日には継続時間の長い火山性微動が発生しました。
- ・ 2014年12月12日の火山性微動に伴って、急な西側上がり (火口側上がり) の傾斜変化がみられました。
- ・ GNSS連続観測では、2014年9月頃から一切経山南山腹観測点 (大穴火口の北約500 m) が関係する基線で、一切経山付近の膨張を示唆すると考えられる変化がみられます。
- ・ 大穴火口の噴気活動は、やや活発な状態が続いています。

- ・ 大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

安達太良山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

磐梯山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

3 . 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

那須岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

日光白根山 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

草津白根山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

- ・ 湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が2014年3月上旬から増加し、8月20日以降はやや少ない状態で経過していますが、一時的に増加することもあります。火山性微動は発生していません。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、2014年4月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられます。湯釜周辺の傾斜計にも湯釜付近の膨張を示す変動が継続しています。
- ・ 湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。
- ・ 2014年5月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられていましたが、7月以降は停滞しています。
- ・ 2014年5月から、北側噴気地帯の硫化水素ガス成分が急減しています。湯釜湖水の温度はやや高めで推移しており、湖水中のフッ化物イオン・塩化物イオンが増加しています。
- ・ 草津白根山では火山活動が活発化した状態が続いており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山性地震は、2010年4月以降やや少ない状態で経過しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、2010年3月以降やや少ない状態で経過しています。
- ・ 山体周辺のGNSSによる地殻変動観測では、2009年秋頃から縮みの傾向がみられます。
- ・ 火山活動は静穏な状態が続いていますが、山頂火口から500mの範囲では、突発的な火山灰噴出や火山ガス等に警戒してください。

新潟焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

弥陀ヶ原 [噴火予報 (平常)]

- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

- ・ 立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012年6月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

焼岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

乗鞍岳 [噴火予報(平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

御嶽山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)] 平成27年1月19日に警報事項を切替え(噴火警戒レベル3(入山規制)は継続)。

- ・ 今期間、噴火は発生しませんでした。
- ・ 剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙は白色で、高さは2014年10月中旬までは400~1000mでしたが、その後は概ね200m前後で経過しています。
- ・ 地震回数は2014年10月に入ってから減少し、少ない状態で経過しました。そのうち、低周波地震は、2014年11月17日に1回、12月8日に1回、2015年1月11日に3回観測していますが、いずれも振幅は小さく、発生前後で他のデータに特段の変化はみられていません。
- ・ 火山性微動は、2014年11月21日から23日にかけて継続時間の短い火山性微動を合計4回観測しました。
- ・ 火山ガス(二酸化硫黄)観測によると、2014年10月以降、1日あたりおよそ200~500トンと噴火発生直後に比べ減少し、やや少ない状態となっています。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、御嶽山を挟む基線で2014年9月上旬頃からごくわずかな伸びと9月下旬頃からごくわずかな縮みの傾向がみられましたが、2014年12月までに2014年9月上旬頃の基線長に戻っており、大規模な噴火につながる兆候は認められません。
- ・ 御嶽山の火山活動には低下傾向がみられ、2014年9月27日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっています。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。
- ・ 火口から概ね2kmの範囲では、大きな噴石の飛散に警戒してください。また、2014年9月27日と同程度の火砕流が発生した場合には、地獄谷では火口から概ね2.5kmまで影響が及ぶ可能性がありますので警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

白山 [噴火予報(平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

富士山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ 2011年3月15日に山頂の南南西約5km、深さ15kmを震源とする静岡県東部の地震(マグニチュード6.4、最大震度6強)が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・ その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

箱根山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

伊豆東部火山群 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

伊豆大島 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・ 長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。2011年頃から鈍化していましたが、2013年8月頃から再び膨張傾向がみられ、2014年8月頃からはその膨張率に増大傾向がみられています。
- ・ その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、2014年8月以降、山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

新島 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

神津島 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

三宅島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

- ・ 噴火は2013年1月22日を最後に発生していません。
- ・ 噴煙は白色で、高さは火口縁上100~500mで経過しています。
- ・ 山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。
- ・ GNSSによる観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞しています。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、期間中は1日あたり200~400トンと、やや少量の火山ガス放出が続きました。
- ・ 火口周辺 (雄山環状線内側) に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴煙活動は続いており火口近傍に火山灰等が噴出する可能性があります。風下にあたる地区では火山ガスに警戒してください。

八丈島 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

青ヶ島 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

西之島 [火口周辺警報 (入山危険)] 平成27年2月24日に警報事項を切替え (火口周辺警報 (入山危険) は継続) 。

- ・ 2013年11月20日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出により、出現した新島が拡大し、2013年12月26日には西之島旧島と一体となりました。
- ・ その後も噴火活動は継続し、新たに形成された陸地 (西之島旧島と接続した新島部分) の拡大が確認されており、西之島旧島のほとんどを埋没させています。2015年2月23日時点で、新たに形成された陸地の面積は約2.5km²になっています。
- ・ また、2015年2月初旬までに噴出したマグマの量は9千5百万m³前後と見積もられており、マグマの噴出レートは2014年9月頃には1日あたり約50万m³まで増加しましたが、10月以降は1日あたり10~30万m³程度で経過しています。
- ・ 噴火が最初に確認された2013年11月及びマグマの噴出レートが増加した2014年9

- 月には、西之島の南海上の南海丘付近で変色水が確認されています。
- ・ 文献調査によると、一般に、海上まで影響が及ぶ海底噴火は概ね水深400m以浅の場合に限られ、うち水深数十m以浅の噴火の際にベースサージを伴うことがあります。
 - ・ 西之島では噴火が継続しており、島の中心から概ね4 km以内では噴火に警戒してください。

②① 硫黄島 [火口周辺警報 (火口周辺危険)]

- ・ 島西部のミリオンダラーホール (旧火口) では、2012年2月以降ごく小規模な水蒸気爆発が度々発生していますが、2013年4月12日以降、噴火は確認されていません。
- ・ 地震活動はやや多い状態で経過しています。火山性微動は時々観測されています。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、2014年2月下旬頃からの隆起の傾向が9月頃から停滞していましたが、12月頃から再び隆起の傾向がみられ、2015年1月中旬頃から隆起速度が上がっていましたが、2月上旬頃から停滞しています。なお、島内南北方向の伸びの傾向は継続しています。
- ・ 硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。

②② 福徳岡ノ場 [噴火警報 (周辺海域警戒)]

- ・ 長期間にわたり変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

4 . 九州地方・南西諸島

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報 (平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

九重山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ 火山性地震が一時的に増加しました。
- ・ GNSS観測によると、わずかな伸びの傾向がみられていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

阿蘇山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

- ・ 火山性微動の振幅が次第に大きくなり、中岳第一火口でごく小規模な噴火が断続的に発生するなかで、2014年11月25日からマグマ噴火が始まりました。11月26日以降は連続的に噴火が発生し、火山性微動は振幅の大きな状態で継続するなど、活発な火山活動が続いています。11月27日以降、遠望カメラや現地調査で、ストロンボリ式噴火を時々観測しています。
- ・ 2014年11月25日から27日に実施した現地調査及び聞き取り調査の結果、熊本県、大分県及び宮崎県の一部で降灰を確認しました。11月27日の現地調査では、中岳第一火口の南側で火山灰が約7 cm堆積し、火口周辺ではこぶし大のスコリアを確認しました。中岳第一火口南側の火山灰は、2015年2月20日現在約26cm堆積しています。
- ・ 現地調査によると2014年11月25日から29日の噴火当初5日間の火山灰の総量は15万トン程度、12月9日から11日の噴火による火山灰の総量は7万トン程度と概算されています。
- ・ 噴出したスコリア等の分析によると、マグマの組成は1970、1980年代の噴出物と類似しています。
- ・ 2014年12月9日夜間の噴火では、小さな噴石が強風に流されて中岳第一火口の南西

側 1 km付近に落下するのを遠望カメラで確認し、12月10日に実施した現地調査では、中岳第一火口の南西側500m付近で最大約20cm、1 ~ 1.2km付近で3 ~ 10cmの小さな噴石が落下していることを確認しました。

- GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。
- 中岳第一火口近傍の傾斜計では、2014年12月10日頃から草千里方向が隆起する変化（西上がり）の傾向が認められ、2015年1月5日頃から9日頃にかけては、火口直下の増圧と考えられる火口方向が隆起する変化（東上がり）が認められました。
- 二酸化硫黄の放出量は、10月下旬以降、1日あたり1,700 ~ 3,100トンと多い状態で経過しています。
- 2014年11月25日からの噴火に伴い、風下側では農作物や、航空機の運航に支障が出るなどの被害が発生しています。
- 中岳第一火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。
- 南阿蘇村吉岡の噴気活動はやや活発な状態が続いており、引き続き噴気活動に注意してください。

雲仙岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- 長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

霧島山

新燃岳 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

- 新燃岳では、2011年9月7日を最後に噴火は発生していません。
- 火口内に蓄積された溶岩の状態に特段の変化はありませんでした。火口内南東側の火孔の形状にも特段の変化はみられませんでしたが、火口にたまった溶岩内部には依然高温状態の部分もあると考えられます。
- GNSS観測によると、新燃岳の北西数km（えびの高原付近）の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。
- 新燃岳火口直下を震源とする地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は2012年3月以降観測されていません。
- 新燃岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には泥流や土石流に注意してください。

御鉢 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

えびの高原（硫黄山）周辺 [火口周辺警報（火口周辺危険）] 平成26年10月24日に火口周辺警報を発表。平常から火口周辺危険に引上げ。

- えびの高原（硫黄山）周辺では、火山性地震が時々発生しています。
- 2015年2月2日には、硫黄山付近の海拔下0 kmを震源とするマグニチュード1.2（暫定値）の地震が発生し、2月3日頃から、韓国岳北東観測点の傾斜計で、北西方向

が隆起すると考えられる変動が観測されました。

- ・火山性微動は、2014年8月20日に発生して以降、発生していません。
- ・GNSSによる連続観測では、えびの高原(硫黄山)周辺の伸びの傾向が続いています。
- ・現地調査及び上空からの観測では、硫黄山及びその周辺では、噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、硫黄山及びその付近に熱異常域はみられませんでした。
- ・えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降る恐れがあるため注意してください。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

- ・昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。
- ・爆発的噴火は、今期間(2014年10月から2015年2月11日)169回で、大きな噴石が3合目まで達した噴火が5回発生しました。噴煙の高さが火口縁上3,000m以上の噴火は7回発生し、最高は火口縁上4,000m(2015年1月23日20時30分の爆発的噴火)でした。
- ・南岳山頂火口では、2014年11月7日に噴火が1回発生しました。
- ・二酸化硫黄の放出量は、2014年10月から12月は、1日あたり1,000~2,100トン、2015年1月は、1日あたり2,300~5,000トンと概ね多い状態で経過しました。
- ・鹿児島県の降灰観測データをもとに解析した火山灰の月別の噴出量は、2014年10月から12月は30万トンから40万トンで推移しましたが、2015年1月には60万トンに増加しました。
- ・島内の傾斜計による地殻変動観測では、2014年7月中旬頃から山体が沈降する傾向が認められていましたが、12月下旬頃から山体が隆起する傾向がみられます。伸縮計では、2014年12月下旬頃から変化がみられ、2015年1月1日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続しています。
- ・GNSSによる地殻変動観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張を示す伸びの傾向は、2013年6月頃から停滞していましたが、2015年1月から伸びの傾向を示しています。島内では、2015年1月上旬頃から伸びの傾向がみられます。
- ・火山灰の放出量と地殻変動量から導いた桜島直下へのマグマの供給量は、2014年10月から12月は少ない状態で経過しましたが、2015年1月に増加したと推定されます。
- ・昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石(火山れき)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

口永良部島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

- ・口永良部島では、2014年8月3日の噴火以降、火山活動は高まった状態で経過していましたが、2014年12月頃から、さらに高まった状態となっています。

- ・ 新岳では、2014年8月4日以降、噴火は発生していません。
- ・ 2015年1月24日に火山性地震が一時的に増加しました。同日、23時14分に発生した、口永良部島付近を震源とするマグニチュード2.2（暫定値）の地震（深さ5km）では、屋久島町口永良部島池田で震度1を観測しました。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、2014年8月3日の噴火以降増加し、2014年10月から11月に1日あたり500～700トンとなりました。その後さらに増加し、11月下旬には2千トンを超え、2015年1月には最高3,100トンを観測するなど多い状態となっています。
- ・ GNSS連続観測では、2014年12月頃から島内の一部の基線にわずかな伸びの傾向が認められます。
- ・ 新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には土石流の可能性ありますので注意してください。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・ 御岳火口では、爆発的噴火が2014年12月に5回、2015年1月に4回、2月（15日まで）に12回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。
- ・ 噴煙の高さの最高は、火口縁上1,500mでした。また、同火口では夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。
- ・ 十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、期間中、時々集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。
- ・ 火山性微動は、断続的に発生しました。諏訪之瀬島周辺を震源とするA型地震は、少ない状態で経過しました。B型地震は、やや多い状態でした。
- ・ 今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

注) 噴火警戒レベルは平成27年2月24日現在、30火山で運用しています。

全国の活火山の噴火警報及び噴火予報発表状況

地方	火山名	現在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	雌阿寒岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年9月29日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年10月17日 噴火予報(平常) 2008年11月17日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年12月16日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年4月10日 噴火予報(レベル1、平常)
	大雪山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	十勝岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年12月16日 噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月16日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年2月24日 噴火予報(レベル1、平常)
	樽前山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	倶多楽	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	有珠山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年6月9日 噴火予報(レベル1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	恵山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	東北地方	岩木山	噴火予報(平常)
八甲田山		噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
秋田焼山		噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2013年7月25日 噴火予報(レベル1、平常)
岩手山		噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
秋田駒ヶ岳		噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2009年10月27日 噴火予報(レベル1、平常)
鳥海山		噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
栗駒山		噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
蔵王山		噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
吾妻山		火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月12日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
安達太良山		噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2009年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
磐梯山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2009年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)	
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2009年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	日光白根山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	草津白根山	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2009年4月10日 噴火予報(レベル1、平常)切替 2014年6月3日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	浅間山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月8日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月1日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月3日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月7日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月15日 噴火予報(レベル1、平常)
	新潟焼山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2011年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	弥陀ヶ原	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)

	火山名	現在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	焼岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2011年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	乗鞍岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	御嶽山	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年3月31日 噴火予報(レベル1、平常) 2014年9月27日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年9月28日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年1月19日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替
	白山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	富士山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	箱根山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2009年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	伊豆東部火山群	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2011年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	伊豆大島	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	新島	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	神津島	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	三宅島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年3月31日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	八丈島	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	青ヶ島	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	西之島	火口周辺警報(入山危険)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2013年11月20日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2014年6月3日 火口周辺警報(入山危険) 2014年6月11日 火口周辺警報(入山危険)切替 2015年2月24日 火口周辺警報(入山危険)切替
	硫黄島	火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日 火口周辺警報(火口周辺危険)
	福岡ノ場	噴火警報(周辺海域警戒)	2007年12月1日 噴火警報(周辺海域警戒)
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	九重山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	阿蘇山	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2011年5月16日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年6月20日 噴火予報(レベル1、平常) 2013年9月25日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年10月11日 噴火予報(レベル1、平常) 2013年12月27日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2014年3月12日 噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月30日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	雲仙岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月22日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月29日 噴火予報(レベル1、平常) 2010年3月30日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月16日 噴火予報(レベル1、平常) 2010年5月6日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年1月26日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2011年1月31日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年2月1日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年3月22日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年6月26日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2013年10月22日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)

	火山名	現在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	霧島山(御鉢)	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2014年10月24日 火口周辺警報(火口周辺危険)
	霧島山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	桜島	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月19日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年3月2日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月10日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月24日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年7月19日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2010年9月30日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年10月13日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2012年3月12日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年3月21日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替
	薩摩硫黄島	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日 噴火予報(レベル1、平常) 2013年6月4日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日 噴火予報(レベル1、平常)
	口永良部島	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年9月4日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月18日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日 噴火予報(レベル1、平常) 2009年9月27日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日 噴火予報(レベル1、平常) 2011年12月15日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日 噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月3日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年8月7日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替
諏訪之瀬島	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	

注) 噴火警報及び噴火予報の発表履歴は、2007年12月1日以降のものを記載しています。

上記以外の活火山では2007年12月1日に噴火予報(平常)を発表し、その後、予報事項に変更はありません。

地方	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口

及び南西諸島 之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

* 天頂山と雄阿寒岳は2011年6月7日に活火山として追加し、噴火予報（平常）を発表しました。

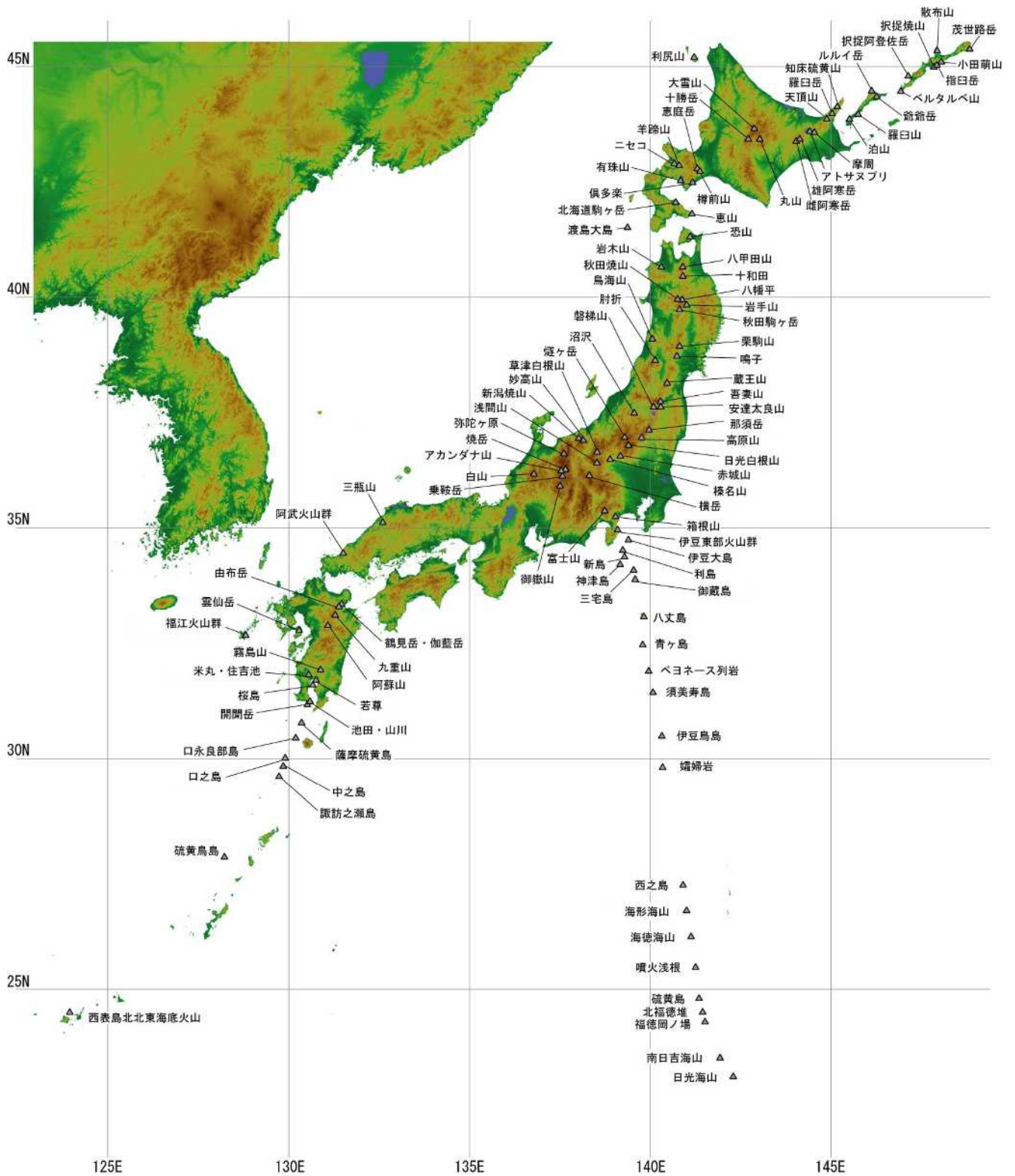


図 全国の活火山分布